

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	山梨県	事業実施主体	山梨県、北州市、甲斐市	地域再生計画名	甲斐の国中北部地域再生計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	山梨県 治山林道課長、耕地課長、道路整備課長、北州市 建設課長、甲斐市 都市計画課長		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実施状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標 1	交流人口の増加	8,912千人	H26	9,166千人	H29	9,012千人	9,491千人	H31	×	整備促進によりアクセスが改善したが、中北部地域内の交流人口はその他の要因が大きく影響し、交流人口は基準年に対し増加しているものの、中間目標には達していない。
	指標 2	観光周遊ルートの総所要時間	250分	H26	234分	H29	232分	224分	H31	○	市道、農道、林道の各事業の整備により、中間目標が達成された。
	指標 3	効率的な林業経営が可能となる人工林面積の増加	30ha	H26	47ha	H29	209ha	59ha	H31	○	計画路線の林道開設及び森林環境保全整備事業の林業専用道開設により、中間目標が達成された。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の発現状況	指標 1										
	指標 2										

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度 (H29)	最終実績 見込み	
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	0.39km	0.37km	0.37km	・甲斐市道について、道路改良部は完了しており、塩崎駅南北のアクセスが改善した。 ・北州市道について、一部の用地取得が難航しているものの整備済区間においてアクセスが改善し、観光入込み客の増加に寄与している。
	農道整備事業（整備延長）	1.10km	0.88km	1.10km	広域農道八ヶ岳南線、茅ヶ岳東部線が一部供用開始したことで、観光周遊ルートの所要時間を短縮している。
	林道整備事業（整備延長）	13.51km	3.47km	13.51km	国費の緊縮等により進捗が伸び悩んでいるが、森林環境保全整備事業でカバーし、効率的な林業経営が可能となる人工林面積の大幅な増加を図ることができた。今後は目標達成に向け予算獲得を図る。
その他の事業	森林環境保全整備事業（林務）	面的にまとめて計画的に行う撤出間伐等の森林施業と、これと一体となった林業専用道の開設を行う			林業専用道の開設を積極的に進めており、林業経営の効率化に寄与している。さらなる林業振興を図るため、事業を継続して進めて行く。
	観光地の魅力向上（北州市）	他県の観光地（長野県富士見町、原村）との相互協力の関係を築き、交流、情報交換などにより誘客の促進を図ると共に、地域づくり・人づくりに努めている。また、パンフレット、メディア等の広告を活用し、観光のPRを推進している。			北州市、長野県富士見町、原村で構成する八ヶ岳観光圏では、平成30年から平成35年までの新たな観光圏整備実施計画が国土交通省から認定された。これを受け、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催により増加が予想される訪日外国の対応に重点を置き、民間業者等、多様な関係者と合意形成を行いながら、引き続き滞在型観光促進の取り組みを図っている（マーケティング調査、コンテンツ開発、滞在プログラム造成、2次交通の多言語化、等）（参考：北州市入込客数 H29:3,978,263人、H28:4,019,386人、H27:3,735,548人）
	公共事業の連携強化（甲斐市）	幹線の主要バス停及び鉄道駅に接続した「甲斐市市民バス」により山間地区、市街地への交通手段を確保していく。また、民間路線バスやコミュニティバスなどが連携したバスネットワークの構築により、鉄道駅への円滑な乗り継ぎや、商業施設、病院、観光施設を経由する移動手段を確保し、市内外へのアクセスの向上を図り、併せて市外からの来訪者の移動を支援していく。			特別措置の適用により整備した市道に接する鉄道駅に、交通広場（ロータリー）を整備したことにより、コミュニティバスやタクシーなど、鉄道と道路交通の接続が円滑に行えるようになり、移動手段の選択肢が増えることで周辺の観光施設や商工施設等へのアクセスが向上した。 現在、半分程度の整備率であるが、平成30年度末の整備完了により、更なる利便性の向上が図られる。
計画外で独自に実施した事業	県単独林道事業（林道）	山岳観光のアクセス道として利用の高い林道や沿線住民の生活用道路である林道を改良し、山村地域の振興と定住環境の改善を図る。			計画対象路線の事業実施により、山村地域の振興に寄与し、あわせて地域住民の通行の安全も確保した。今後も継続して整備を進めていく。

④評価方法 地域再生計画評価会議を立上げ、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。

⑤中間評価の公表方法 山梨県のホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価
 ・本地域再生計画では、市道、農道、林道を一体的に整備することにより効率的な道路ネットワークを構築し、地域内交流人口の増加を図り、地域全体の活性化を目指す計画である。これまでの整備により、中間年時点の交流人口が基準年（H26年）に対して増加しているものの、中間目標には達していない。
 ・中間年までの事業進捗において、市道・農道等の一部供用開始や県単独林道事業の実施により、観光周遊ルートの所要時間が短縮し、中間目標を達成することができた。
 ・また、森林環境保全整備事業においても、当該交付金を合わせて積極的に実施することにより、効率的な林業経営が可能となる人工林面積も増加し、中間目標を達成することができた。

⑦今後の方針等
 ・農道整備については、整備による効果も確認できていることから最終目標に向け引き続き事業を推進を図る。
 ・市道整備については、概ね計画した区間の本工事が完了しアクセスが改善している。残る周辺整理を実施し事業を完了させる。
 ・さらなる交流人口の増加を図るために、観光地間のアクセス改善のための市道整備、農道整備、林道整備を一体的に進める。一方、森林環境保全整備事業等の他の事業についても、引き続き実施することにより総合的に地域の魅力向上に努力する。

地域再生計画 中間評価参考資料

都道府県名	山梨県		地域再生計画の名称	甲斐の国中北部地域再生計画	
施行主体	山梨県、北杜市、甲斐市		計画期間	平成27年度～平成31年度	
地域再生計画の概要	<p>南アルプス、秩父多摩甲斐、ハケ岳中信高原、ハケ岳南麓、瑞牆山、金峰山などの山梨百名山の観光地に代表される甲斐の国中北部地域では、人口減少・高齢化が進行し、災害時の避難経路の確保も含めた道整備が十分でないことから交流人口の増が図られていない。このため市道、広域農道及び林道を一体的に整備し、観光地のPR、中心市街地整備を行うことによりインターチェンジや幹線道路から観光施設へのアクセス利便性を向上させる効率的な道路網を構築し、効率的な林業経営及び新たな観光客の掘り起こしによる地域の活性化を図る。</p>				
地域再生を図るために 行う事業	<p>北部においては、須玉インターチェンジ、韮崎インターチェンジからハケ岳、茅ヶ岳南部方面へのアクセスを目的として、広域農道「ハケ岳南線」「茅ヶ岳東部線」、甲斐市の「塩崎駅前」及びその周辺林道の整備を図る。</p> <p>また、南部においては、来訪観光客の安全・安心を確保するため、南アルプス市の「南アルプス林道」の改良事業を実施する。</p> <p>これらにより、中北部エリア全体として市道・広域農道・林道と既に整備済みあるいは今後整備予定である高速道路や県道等との連携が図られ、観光地間をつなぐ安全・安心なアクセスルート網が構築される。</p> <p>加えて、森林施業における効率化と生産コストを抑えることで、林業・木材産業の生産活動を向上させ、林業の振興を図っていく。また、住民の利便性向上や災害時の孤立への不安の払拭も図ることにより、全体的に地域に潤いがもたらされる。</p>				
主な計画道路の 整備状況写真	広域農道 ハケ岳南線 (着工前) (H29末時点)		広域農道 茅ヶ岳東部線 (着工前) (H29末時点)		
					
主な計画道路の 整備状況写真	北杜市道 52号 (着工前) (H29末時点)		甲斐市道 新町山本線 (着工前) (H29末時点)		林道 南アルプス線 (着工前) (H29末時点)
					